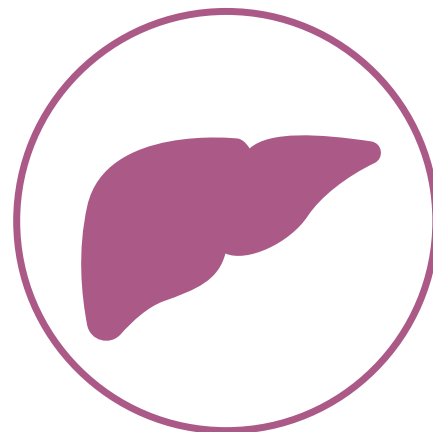




肝機能障害

猫の胆管炎



猫の胆管炎は、胆管のみならず、場合によってはその周辺の肝組織も影響を受ける炎症性肝疾患です。^{1,2} 世界小動物獣医師会 (WSAVA) の肝臓標準化グループでは、猫の胆管炎を好中球性、リンパ球性、肝吸虫感染による慢性の3種類に分類しています。¹

好中球性およびリンパ球性胆管炎の猫では、一般的に、食欲不振（ただしリンパ急性胆管炎の猫では代わりに多食症になることもある）、体重減少、嗜眠、嘔吐、下痢という類似した徴候が見られます。脱水症状や黄疸を起こすことがあります。通常、好中球性胆管炎は急性であり、リンパ球性胆管炎の発症が数週間から数ヵ月かかるのに比べ、1~2週間で発症します。肝吸虫による慢性胆管炎は、熱帯地域や亜熱帯地域で見られ、その多くは無症状です。¹

好中球性胆管炎は、慢性腸疾患や膵炎（急性または慢性）に関連して発生する場合があります。好中球性胆管炎の猫の約25%は、3つの病気が複合した三重炎と診断されます。²

胆管炎の猫は、食欲不振と体重減少により、肝リピドーシスを発症するリスクが高くなります。医学的管理に加え、集中的な栄養サポートが不可欠です。

キーマッセージ

- ペットを安定させ、脱水症状や電解質異常を補正します。できるだけ早く集中的な栄養サポートを開始してください。³
- 留置栄養チューブを使用すると、容易に栄養補給ができます。シリンジの使用や「強制給餌」は余計なストレスを与えることになり、食物嫌悪や誤嚥の発生につながるおそれがあるため、できる限り避けてください。⁴
- 経鼻栄養チューブは、鎮静なしで挿入後すぐに使用できるため、初期のサポートに最適な方法です。このチューブは小径であるため、流動食のみに使用します。
- 麻酔で猫を安定させた場合は、食道瘻チューブをすばやく挿入できるため、ほとんどの猫は十分に耐えることができます。（食道瘻チューブ挿入の手順概要については、オンラインで公開されている専門獣医師による動画をご覧ください。）また、胃瘻チューブも適切な選択肢です。⁴
- 安静時エネルギー要求量 (RER) = $70 \times \text{体重 (kg)}^{0.75}$ を計算し、食餌量を決めます。³ 1日目は1/3量を6~8回に分けて給餌し、その後数日かけて徐々に増やしていき、最後にはRERの全量を給餌します。10~15分かけてゆっくりと給餌し、よだれや舌なめずりなど、嘔吐の徴候がないか観察します。そうした徴候が見られた場合は給餌をいったん停止し、徴候がなくなってから再開します。1回の給餌量を増やしていき、徐々に給餌回数を減らします。^{3,4}

(次のページに続く)

キーマッセージ (続き)

- 食餌を過剰に与えたり、量を急に増やしたりしないように注意します。特に開始当初は、リフィーディング症候群の原因になるおそれがあります。
 - リフィーディング症候群を発症すると、カリウム、リン、マグネシウムの血中濃度が急激に低下します。これらの血清中濃度を注意深くモニタリングし、必要に応じて補給します。^{3,5}
 - ペットに肝性脳障害の徴候がない限り、高タンパク質（代謝エネルギー [ME] の 40～50%）を含む高カロリー療法食（集中治療用または回復用の療法食など）を与えます。必要に応じて、フードに少量の水または流動食を混ぜ、栄養チューブを容易に通過できる粘度にします。給餌前後に必ずチューブを水ですすぎます。
 - 栄養チューブを挿入したまま猫を退院させる場合は、退院前に正しい使用方法と看護方法について飼い主を指導します。動物病院で飼い主に給餌させることにより、飼い主の不安が解消される場合があります。家庭で自発的な食餌摂取を促す必要があるため、栄養チューブによる給餌の前に、さまざまな猫用ドライフードやウェットを与えます。フードを室温にまで温め、匂いと味がよくなるようにします。猫がバランスのとれたフードを確実に摂取できるようになったら、栄養チューブを取りはずすことができます。
- 次の栄養素の補給を検討します。^{5,6}
 - カルニチン：遊離脂肪酸の輸送に必要であり、脂質の代謝を改善する場合があります。
 - ビタミン K：凝固パラメータが異常な場合に与えます。
 - ビタミン B 群：肝臓内のエネルギー代謝を助けます。ビタミン B12：食欲を刺激する場合があります。
 - ビタミン E：胆汁うっ滞に続発する酸化損傷の軽減につながる可能性があります。
 - 長鎖オメガ 3 脂肪酸のエイコサペンタエン酸とドコサヘキサエン酸：炎症を軽減させる場合があります。
- 体重、ボディコンディションスコア、マッスルコンディションスコアをモニタリングします。猫が完全に安定し、よく食べるようになったら、必要に応じて食餌やカロリー摂取量を調整できます。

参考文献

1. Boland, L., & Beatty, J. (2016). Feline cholangitis. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 47, 703–724. doi: 10.1016/j.cvsm.2016.11.015
2. Reed, N. (2021). Feline inflammatory liver disease. In D. Bruyette (Ed.), *Clinical small animal internal medicine* (pp. 687–693). John Wiley & Sons, Inc. doi: 10.1002/9781119501237.ch63
3. Valtolina, C., & Favier, R. P. (2017). Feline hepatic lipidosis. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 47(3), 683–702. doi: 10.1016/j.cvsm.2016.11.014
4. Webb, C. B. (2018). Hepatic lipidosis: Clinical review drawn from collective effort. *Journal of Feline Medicine and Surgery*, 20, 217–227. doi: 10.1177/1098612X18758591
5. Norton, R. D. (2016). Nutritional considerations for dogs and cats with liver disease. *Journal of the American Animal Hospital Association*, 52(1), 1–7. doi: 10.5326/JAAHA-MS-6292R2
6. Center, S. A. (1998). Nutritional support for dogs and cats with hepatobiliary disease. *Journal of Nutrition*, 128(12 Suppl), 2733S–2746S. doi: 10.1093/jn/128.12.2733S

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。